コダイラサービスニュース

2021年7月1日
小平産業株式会社
品質管理部

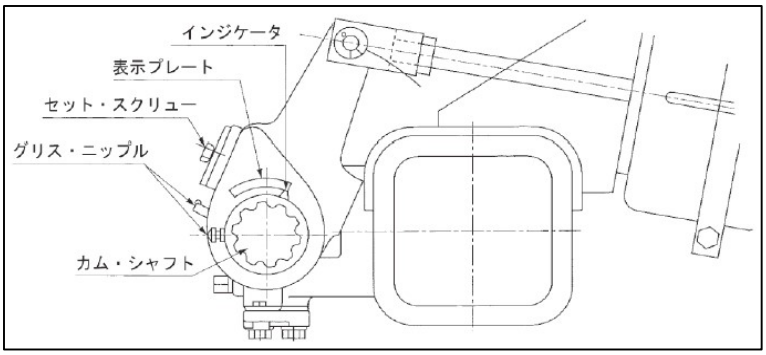
オートマチック・スラック・アジャスターの点検整備に関する注意

オートマチック・スラック・アジャスターはブレーキ・ライニングとドラムの摩耗量に応じてブレーキ・ライニングとドラムの隙間を自動的に調整する装置です。
オートマチック・スラック・アジャスターの点検を怠ると当該車両の制動力が低下する恐れありますので、入念に点検整備を実施して頂きますようにお願いいたします。

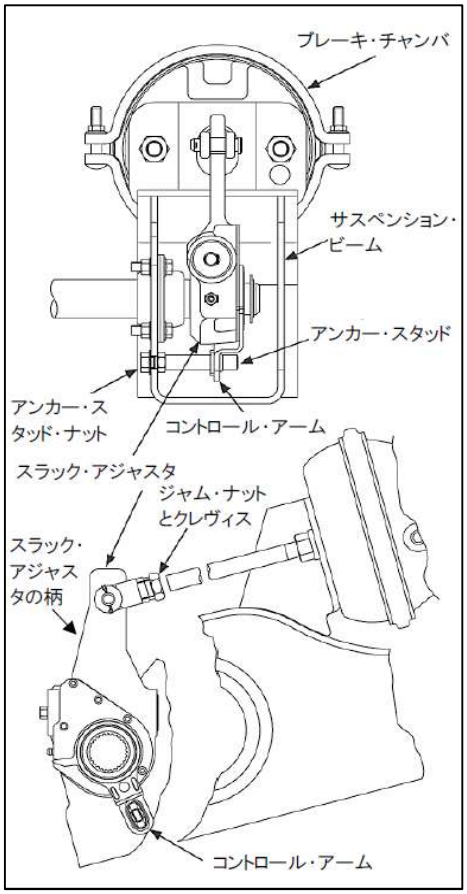
○ オートマチック・スラック・アジャスターの性能を維持するため、本体に損傷や変形、緩みがないか、目視などにより点検してください。また、ブレーキ・チャンバのロッドストロークの点検とオートマチック・スラック・アジャスターの機能点検を同時に行い、異常がある場合は部品交換など、適切な処置を行って下さい。
○ 悪路・走行距離が多い・山道、登り降りの頻繁な走行・けん引自動車の駐車ブレーキの多様（シビアコンンディション）は部品の劣化が進んでおりますので点検整備で安全を確保して下さい。
○ 弊社製造トレーラに取付けられているオートマチック・スラック・アジャスターは３種類（リーフ1種類、エアサス2種類）ありますので詳細は車両搭載の各種整備要領を参照にして下さい。

1.外観の点検

○ オートマチック・スラック・アジャスター本体の著しい損傷
→ソーシン製,Hendrickson製,BPW製の車軸
○ コントロールアーム、摩耗ﾌﾞｯｼｭの損傷変形
→ソーシン製,Hendrickson製の車軸
○ アンカー・スタッドの損傷、変形
→ソーシン製,Hendrickson製の車軸
○ コントロールアームとアンカースタッドとの接続状態、緩みなどないか
→ソーシン製,Hendrickson製の車軸



リーフ用（ソーシン製）



エアサス用（Hendrickson製）

KODAIRA

2.日常点検

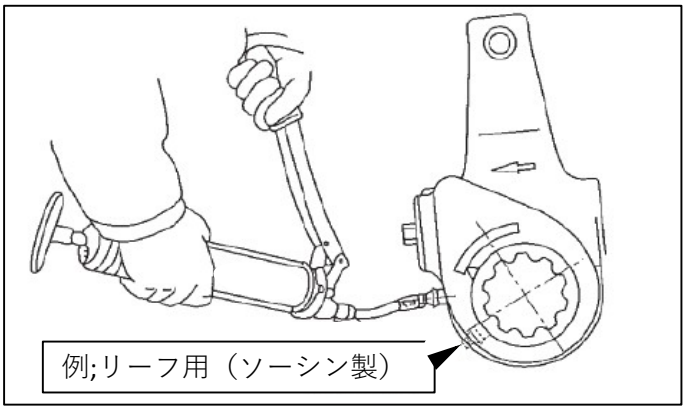
○ ブレーキの作動、ゆるめを数回繰り返し、オートマチック・スラック・アジャスターの動きを点検して下さい。オートマチック・スラック・アジャスターがスムーズに動き、また、元の位置まで完全に戻ることを確認して下して下さい。
○ 左右差があるかどうか確認して下さい。
○ 本体等に損傷や変形、緩みなどないか「1. 外観の点検」を実施して下さい。
※ストロークの測定はトレーラの走行距離や運行時の状態等から判断して適切な時期に実施して下さい。

3.定期点検（3ヶ月毎）・シビアコンディション（１ヶ月毎）

○ ストロークの点検
規程の空気圧でブレーキを作動させ、ブレーキ・チャンバのストロークを点検して下さい。
許容増加量を超えている場合は整備又は交換が必要となります。
許容増加量やストロークの調整は、詳細は車両搭載の各種整備要領にて確認して下さい。
○ 変形や破損、緩み等の点検
オートマチック・スラック・アジャスター本体の変形や破損、緩み等を点検して下さい。
（「1. 外観の点検」を実施して下さい。）異常があれば部品を交換して下さい。

4.給脂（１ヶ月毎）

オートマチック・スラック・アジャスター本体のグリス・ニップルに指定のグリスを古いグリスが押し出されるまで十分に給脂して下さい。



5.点検整備に関する注意

オートマチック・スラック・アジャスターを取付した車両は以下の点に注意して下さい。
○ オートマチック・スラック・アジャスターは、ブレーキ・ライニングの摩耗量に応じてライニングとドラムの隙間を自動的に調整する装置ですが、メンテナンスフリーではありません。日常点検及び定期点検を確実に励行して下さい。
○ 車軸バックプレートの点検窓のラバープラグを取り外し、ブレーキ・ライニングの摩耗状態を点検するか、インジゲータ（ブレーキ・ライニングの摩耗量の表示）を確認して、ブレーキ・ライニングの残量については常にチェックし、使用限度に達したら、ブレーキ・ライニングは早めに交換して下さい。
○ 日常点検では手動によるブレーキ・ライニングとドラムの隙間調整はしないで下さい。
○ 定期点検時及びブレーキ・ライニングの交換後は手動による調整を行って下さい。
ブレーキ・ライニングとドラムの隙間の初期設定が小さいと隙間の自動調整がうまく行かず、オーバーアジャスト（隙間を小さく調整しすぎること）になりブレーキの引きずり等の不具合が発生することがあります。最寄りのディーラ及び指定サービス工場で正しい整備を行って下さい
○ シビアコンディションで使用される車両については、オートマチック・スラック・アジャスターは3年毎の定期交換部品です。